

群馬県文化振興指針(仮称)骨子

平成24年9月

群馬県生活文化部文化振興課

群馬県文化振興指針(仮称)策定の基本的な考え方

趣 旨

「文化県群馬」宣言(昭和56年3月群馬県議会決議)から平成23年3月で30年が経過したことから、群馬県の文化的風土を再評価し、文化行政の目指すべき方向を定めるため、群馬県文化基本条例を制定(平成24年4月1日施行)しました。

群馬県文化振興指針(仮称)は、文化行政の目指すべき方向の骨格を示す同条例の各規定を踏まえ、文化の振興に関し、総合的かつ効果的な推進を図るための基本的な施策を示すために策定するものです。

計画期間

平成25年度から平成29年度までの5カ年計画

構 成

本県の文化の特性、現状と課題について分析を行い、先人から受け継いできた本県が持つ文化の限りない可能性を探ります。次に、そうした現状を踏まえ、基本理念、基本目標など、本県が目指すべき文化行政の方向を示すとともに、推進していくための実効性の確保や姿勢を示します。

最後に、県民アンケート調査結果等を踏まえ、文化振興施策を総合的かつ効果的に推進していくための基本的な施策を示します。

<6部構成>

- ①指針策定の趣旨など ②群馬県の文化の特性、現状と課題 ③群馬県の文化の限りない可能性
- ④目指すべき文化行政の方向性(基本理念、基本目標) ⑤推進に当たっての考え方 ⑥基本的な文化振興施策

策定の方法

指針の策定は、学識経験者、文化活動を行う者、文化関係団体の代表者等で組織する群馬県文化審議会(群馬県文化振興指針策定部会)において原案を策定し、群馬県議会における審議・議決を経て策定します。

なお、市町村及び文化団体から意見を聞く場を設けるとともに、パブリックコメントの実施により、幅広く県民の意見を伺い、指針に反映します。

策定の留意点

1 県民の視点による指針策定

県政の基本姿勢である「対話と協調」のもと、県民が何を望み、何を必要としているか、よく把握することが最も重要であることから、アンケート調査やパブリックコメントの実施等により県民ニーズを把握し、県民の視点による指針を策定します。

2 長期的なビジョンに立った、真に必要な施策の策定

厳しい社会経済環境を背景に、県民アンケートや市町村、文化団体から要望が多かった施策の重点化を図り、文化振興政策を着実に推進します。

3 県民にわかりやすい指針の策定

県民が文化を身近に感じ、自分自身にとっての文化を考えられるような内容を盛り込みます。また、具体的な取り組みや数値目標を設けるなど、できる限り県民にわかりやすい形での明記に努めます。

4 県民、市町村との関係

県民、市町村を県が後ろから支えることが県の責務であることを明確にし、そうした視点で各文化振興施策を策定します。

5 県総合計画との整合

はばだけ群馬プラン（県総合計画）を補完する文化分野の振興に関する個別計画として策定します。

群馬県の文化の特性

- ・ 古代から東国文化の中心地として脈々と築き上げてきた歴史と、多彩な文化に富んだ地域
- ・ 近代から現代にかけては産業、教育及び芸術の各分野で輝かしい歴史を有している地域
- ・ 私たちの暮らしと文化を支えてきた上毛三山、利根川など豊かな自然
- ・ 地域の絆を強めてきた農村歌舞伎や人形芝居などの伝統文化
- ・ 生活に根付いた県内各地域の食文化
- ・ 国の特別史跡である「上野三碑」、東日本最大の前方後円墳である「天神山古墳」
- ・ 絹産業群を代表する「富岡製糸場」、日本の最先端技術を大きく前進させた「中島飛行機」
- ・ 戦後の荒廃の中で文化を通じた復興を目指して創設された「群馬交響楽団」
- ・ 県内の歴史上の人物や自然、地域の産業など、群馬の特徴が読み込まれた「上毛かるた」 など

群馬県の文化の限りない可能性

.....

文化の広がり

- ・ 文化を広く捉えることで県民に身近な食文化や地域に埋もれている文化資産に焦点を当て、価値を再認識していくことにより、地域づくり、観光振興、イメージアップ、絆づくりにつなげていきます。

県民等の文化行政に関する意識調査結果

<調査の目的>

群馬県文化振興指針(仮称)の策定にあたって、本県の文化行政に対する県民等の意識を調査しました。

<調査対象>

1 アンケート調査

(1) 個人

- ・県内在住の満20歳以上の男女(県民) 2,000標本 → 513標本(回収率25.7%)
- ・県内大学生 400標本 → 209標本(回収率52.3%)
- ・県内高校生 401標本 → 401標本(回収率100%)

(2) 企業 1,500標本 → 381標本(回収率25.4%)

- ・群馬県内に本社を置く企業(パチンコ業界を除く全業種)直近(平成23年3月末まで)の売上高10億円以上

(3) 文化団体 400標本 → 186標本(回収率46.5%)

- ・県民芸術祭参加団体、市町村文化協会、県の後援事業実施団体、過去に県が助成した団体、文化芸術・まちづくりNPO法人

(4) 文化施設 143施設 → 83標本(回収率58.0%)

- ・文化ホール61施設及び美術館・博物館等82館(県立を含む)

2 聞き取り調査 21カ所 → 県有施設 942標本、県有施設以外 1,086標本

- ・県有施設：県立美術館・博物館5館、県有施設5施設
- ・県有施設以外：商業施設3施設、観光施設3施設、観光地3ヶ所、中心市街地2ヶ所

<調査期間>

1 アンケート調査 平成24年7月～8月
2 聞き取り調査 平成24年7月～8月

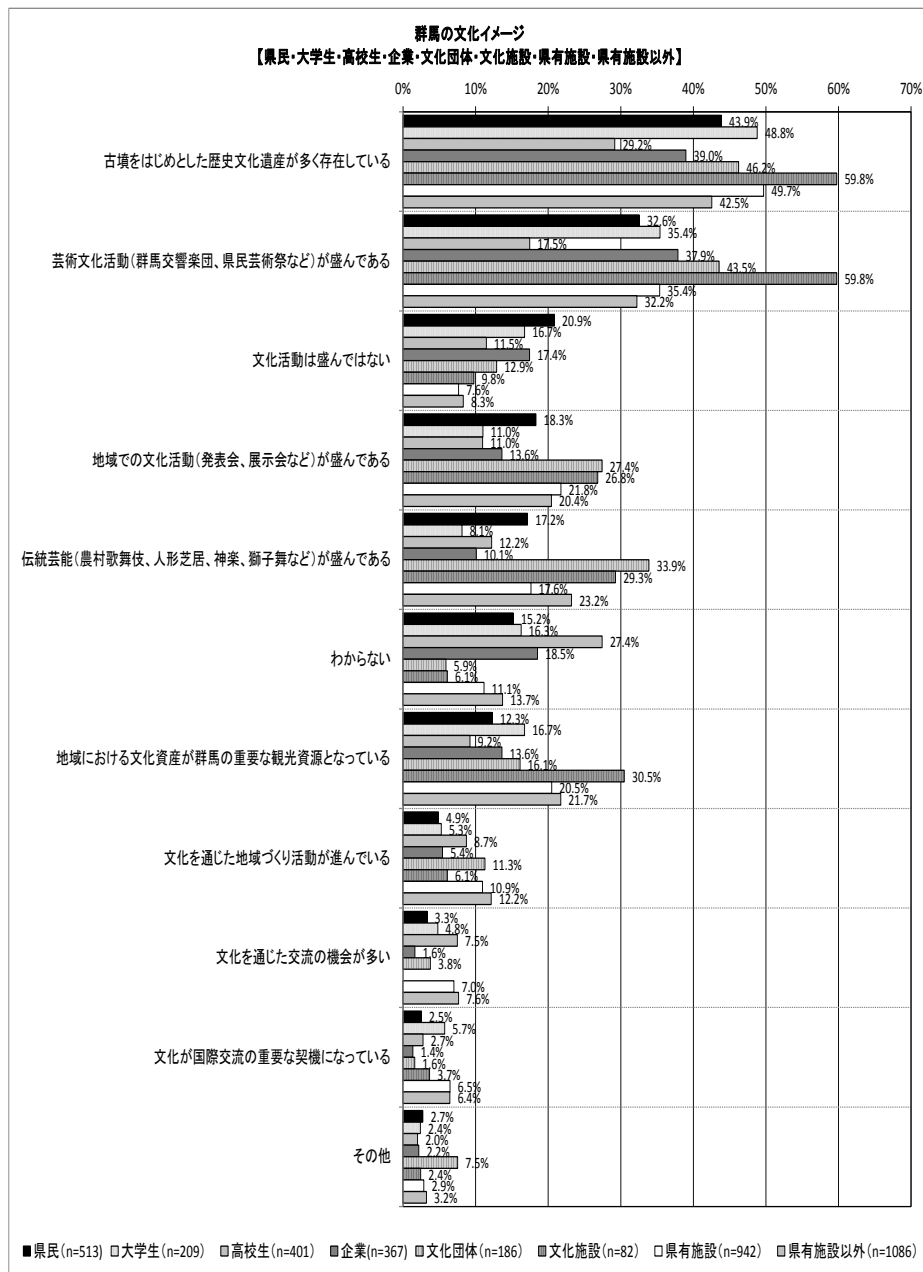
アンケート概要

1 群馬の文化イメージ

全区分において「古墳をはじめとした歴史文化遺産が多く存在している(県民43.9%)」が最も高い割合となっており、次いで高校生を除き「芸術文化活動(群馬交響楽団、県民芸術祭など)が盛んである(県民32.6%)」となっています。

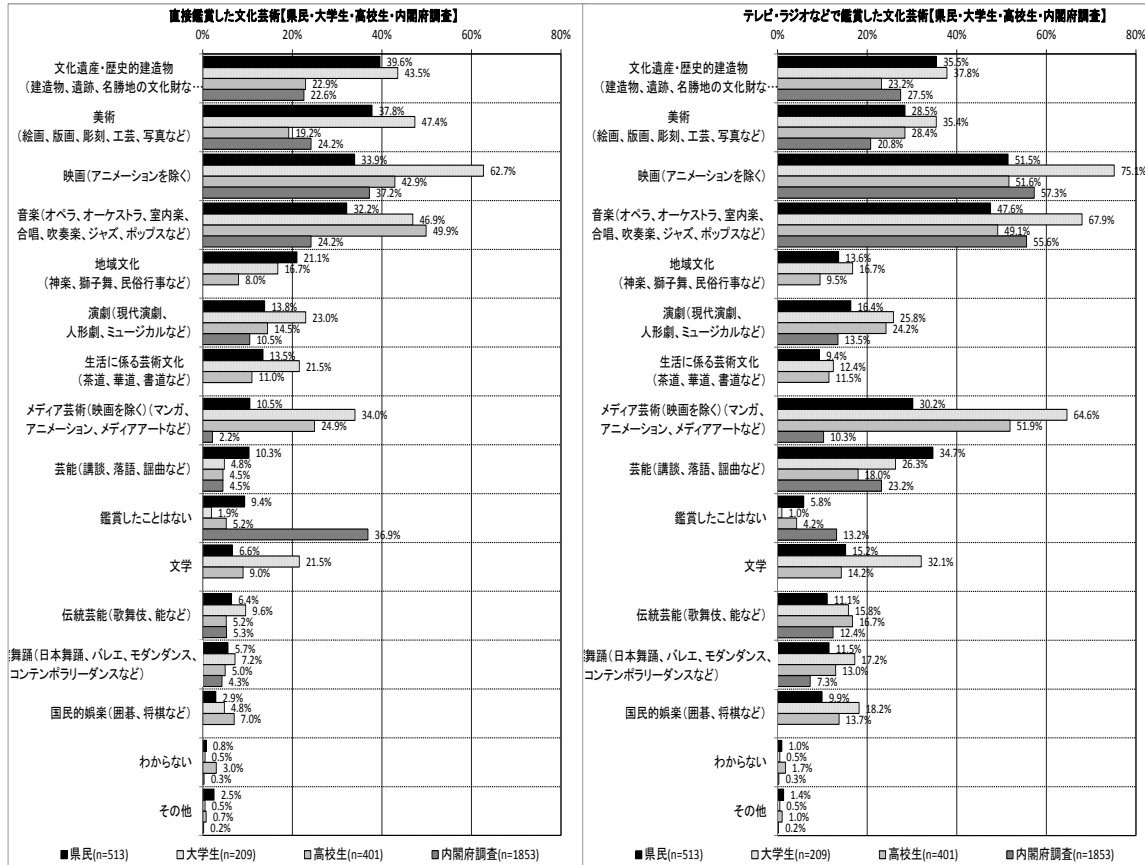
一方、「地域の文化資産が群馬の重要な観光資源となっている(県民12.3%)」や「文化を通じた地域づくり活動が進んでいる(県民4.9%)」と回答した割合は低く、地域の文化資産が観光・地域振興に結びついていないことがうかがえます。

※グラフ中の「n」は、設問に対する有効回答数を示しています。以下のページも同じです。



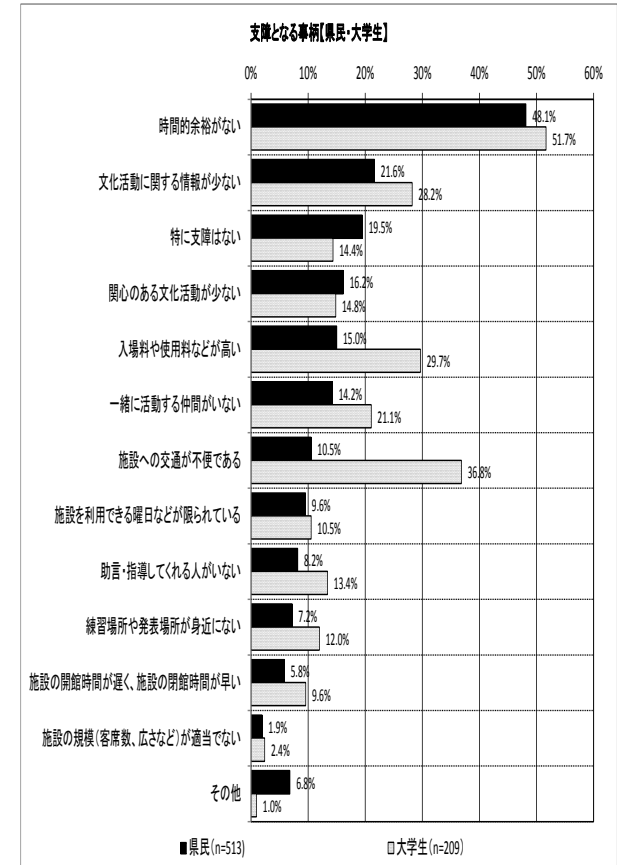
2 この1年間に鑑賞した文化芸術

直接鑑賞した文化芸術は、県民では「文化遺産・歴史的建造物」（39.6%）、大学生では「映画」（62.7%）となっています。一方、テレビ・ラジオなどで鑑賞した文化芸術は、全ての区分において「映画」が最も多くなっています。



3 文化芸術活動を行う上での支障

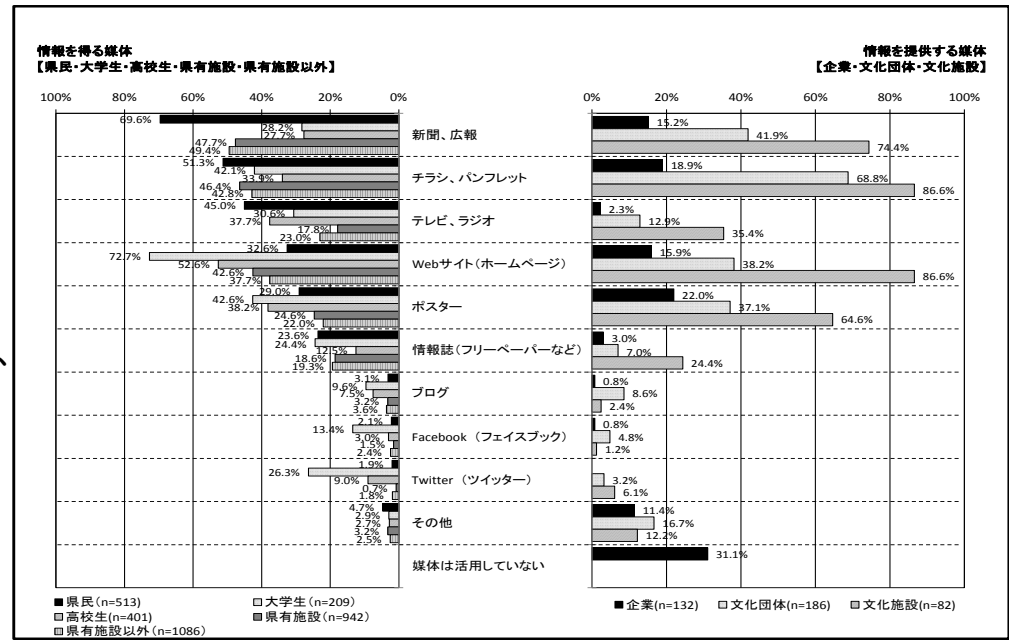
「時間的余裕がない」が県民(48.1%)、大学生(51.7%)ともにそれぞれ一番高くなっていますが、「施設への交通が不便である」では、県民(10.5%)と大学生(36.8%)では、26.3ポイントもの差があります。



4 文化芸術活動に関する情報媒体

情報を得る媒体として、県民、県有施設、県有施設以外では「新聞、広報」(69.6%)(47.7%)(49.4%)、大学生、高校生では「Webサイト」(72.7%)(52.6%)がそれぞれ最も高くなっています。

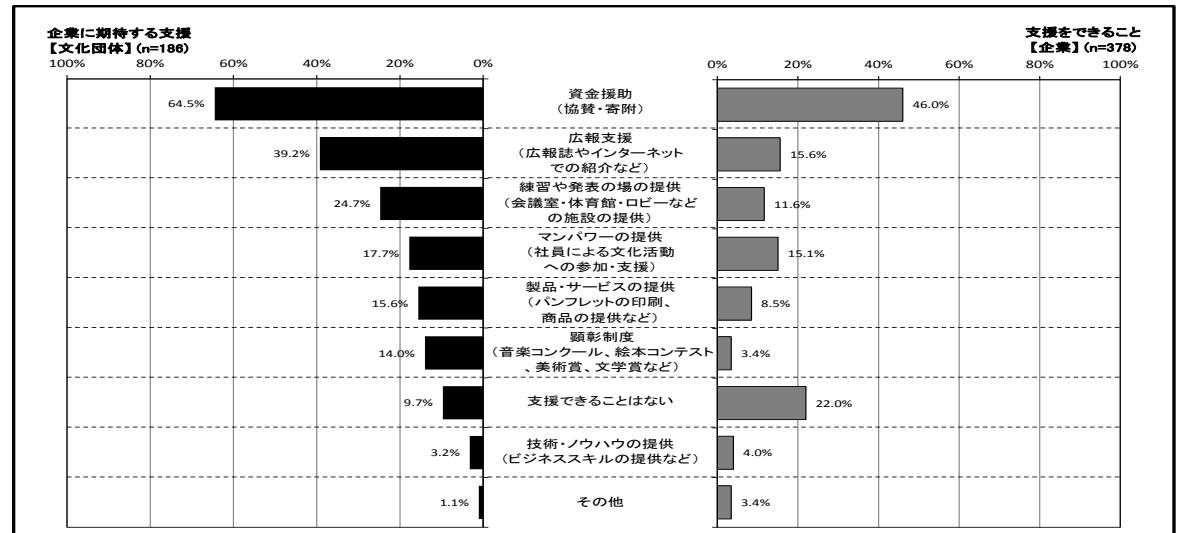
これに対し、情報を提供する媒体は、企業では「媒体は活用していない」(31.1%)、文化団体では「チラシ、パンフレット」(68.8%)、文化施設では「チラシ、パンフレット」「Webサイト」(86.6%)となっており、情報の提供・取得する媒体において相違があることがうかがえます。



5 文化団体が企業に期待する支援と企業ができる支援

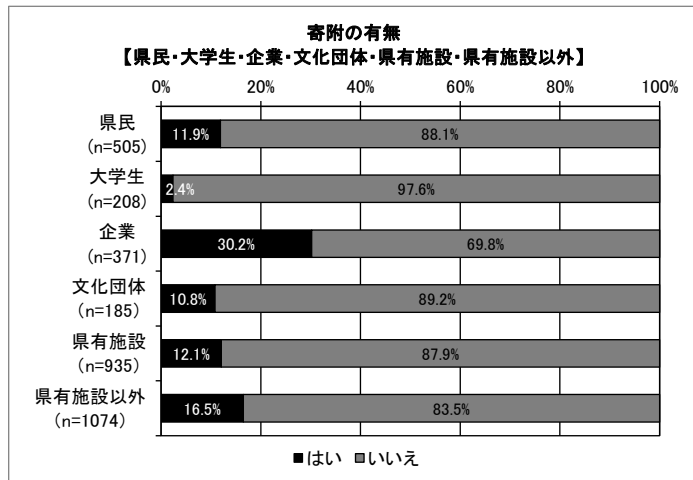
文化団体が企業に期待する支援は、「資金援助」(64.5%)が最も高く、次いで「広報支援」(39.2%)となっています。

これに対し、企業が支援をできることでは「資金援助」(46.0%)が最も高く、次いで「支援できることはない」(22.0%)「広報支援」(15.6%)となっており、文化団体の要望と企業が支援をできることはある程度合致していることがうかがえます。



6 この1年間の文化芸術活動に関わる寄附

企業については30.2%が寄附をしたと回答しており、県民では約1割の人が寄附をしています。



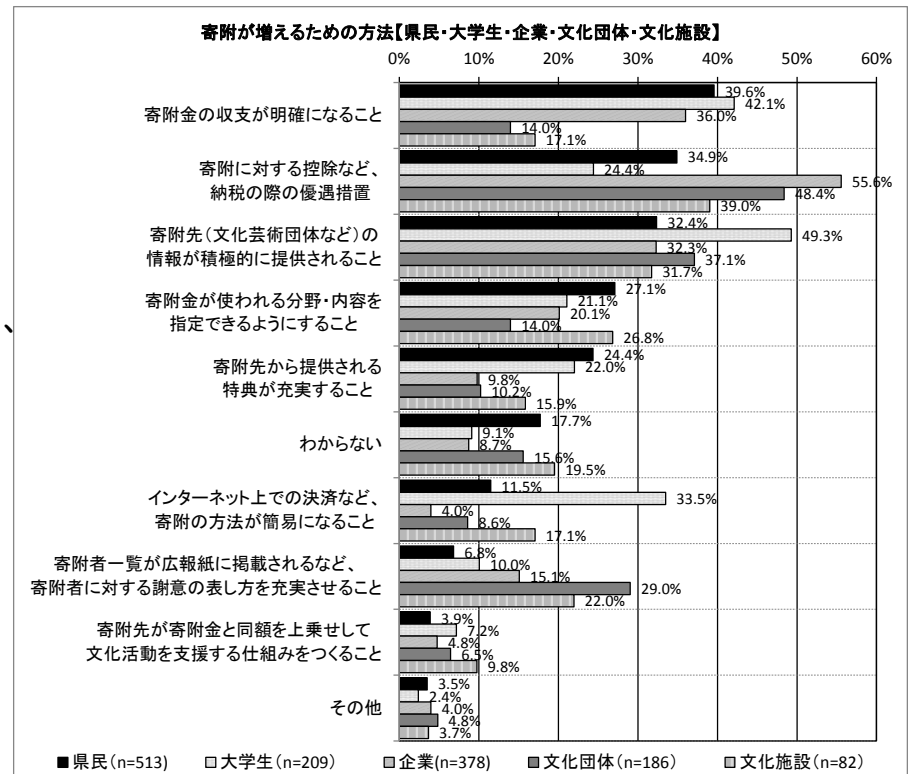
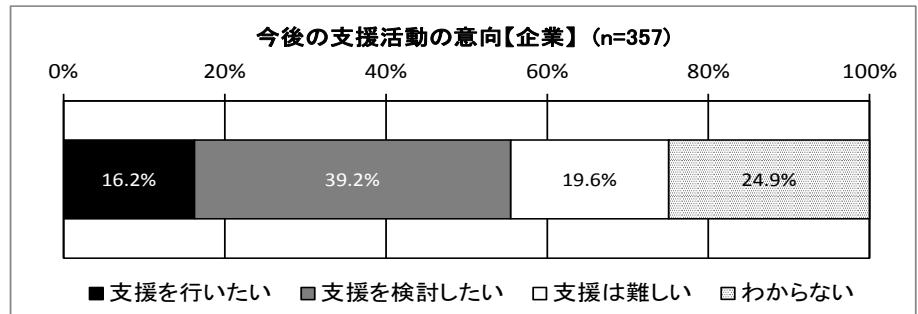
8 文化芸術活動に関わる寄附を行う人や企業を増やすための方法

県民では「寄付金の収支が明確になること」(39.6%)、大学生では「寄附先の情報が積極的に提供されること」(49.3%)となっています。

他方、企業、文化団体、文化施設では「寄附に対する控除など納税の際の優遇措置」(55.6%)(48.4%)(39.0%)が最も高くなっています。

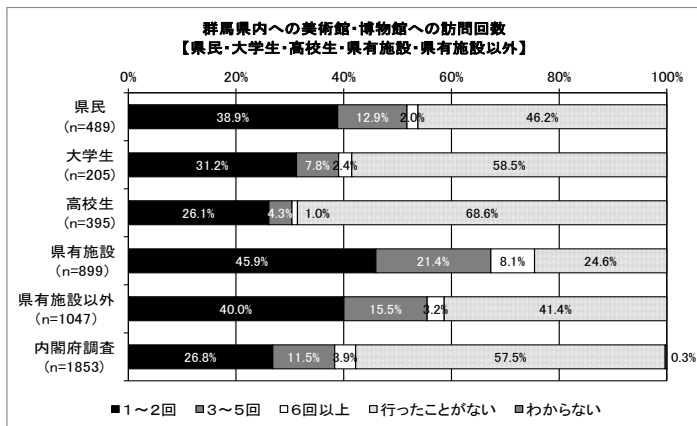
7 県民の文化活動に対する今後の支援

「支援を行いたい」と「支援を検討したい」を合わせると5割を超えており、県民の文化活動に対する支援を前向きに行いたいと回答しています。



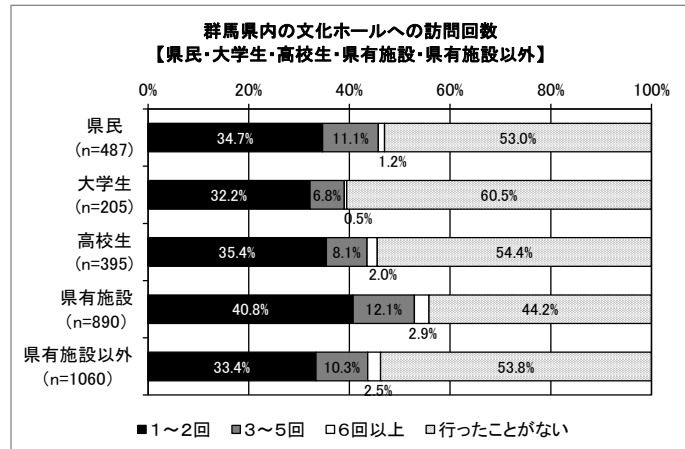
9 この1年の美術館・博物館の利用回数

県民(53.8%)、県有施設(75.4%)、県有施設以外(58.7%)とも、半数以上の人がこの1年間に美術館・博物館を1回以上利用したと回答しています。



10 この1年間の文化芸術の鑑賞などでの文化ホールの利用回数

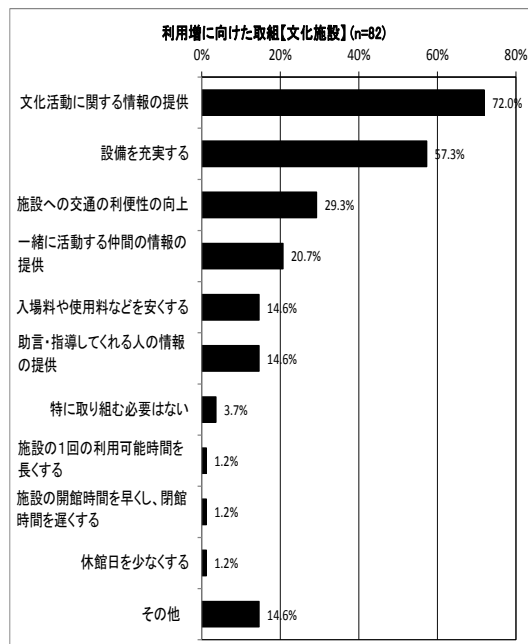
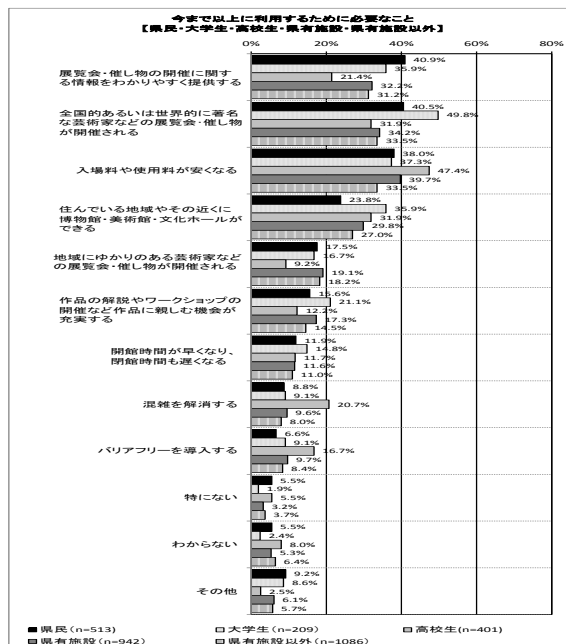
県民(47%)、県有施設(55.8%)、県有施設以外(46.2%)では、ほぼ半数近くの人がこの1年間に文化ホールを1回以上利用したと回答しています。



11 今まで以上に、県内の美術館・博物館・文化ホールに行くために必要なこと

県民では「展覧会・催し物の開催に関する情報をわかりやすく提供する」(40.9%)、大学生では「全国的あるいは世界的に著名な芸術家などの展覧会・催し物が開催される」(49.8%)、高校生、県有施設、県有施設以外では「入場料や使用料が安くなる」(47.4%) (39.7%) (33.5%)がそれぞれ最も高くなっています。

これに対し、文化施設の利用増に向けた取組では「文化活動に関する情報の提供」(72.0%)が最も高く、次いで「設備を充実する」(57.3%)となっています。



12 文化振興に関する施策の満足度と重要度

県民では「上毛かるたや群馬交響楽団などの群馬特有の文化の振興」が満足度・重要度ともに高くなっています。

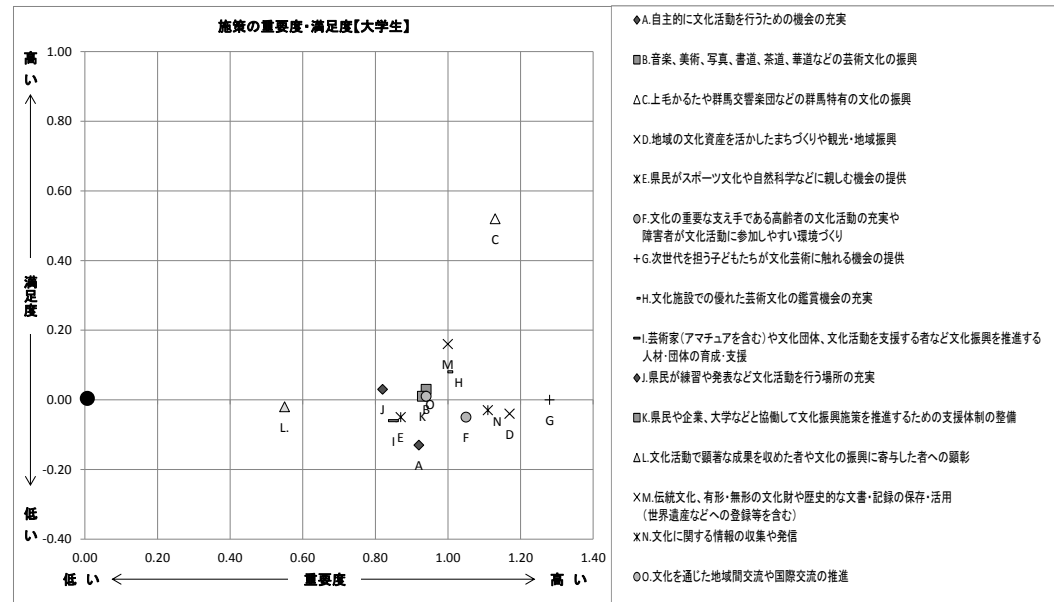
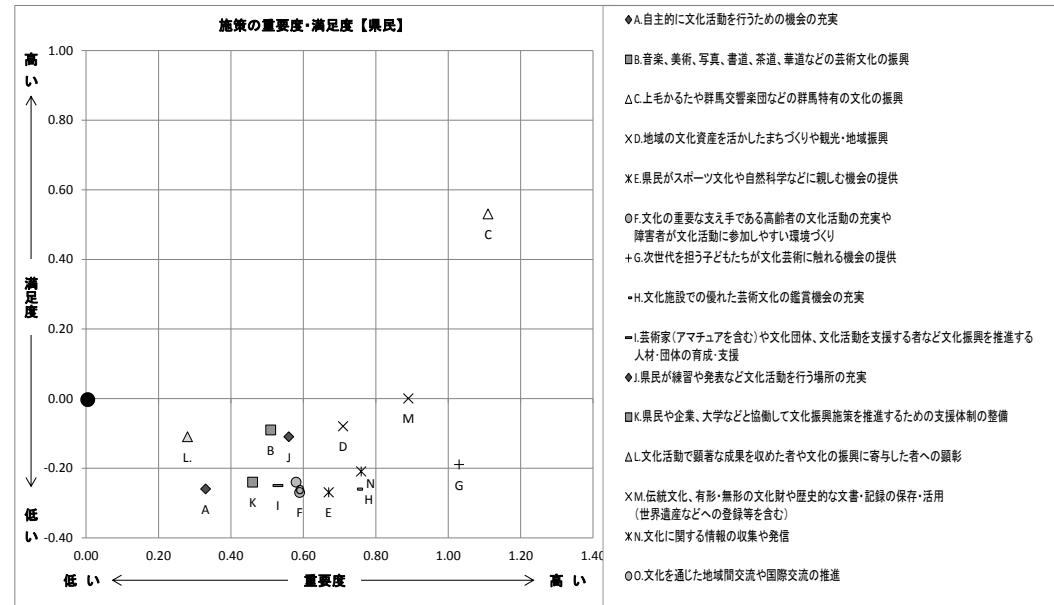
その他の項目については、重要度はすべて高くなっているが、満足度はすべて低くなる結果となりました。

中でも「次世代を担う子どもたちが芸術文化に触れる機会の提供」は重要度は高いが、満足度は低い結果となっています。

大学生でも「上毛かるたや群馬交響楽団などの群馬特有の文化の振興」が満足度・重要度ともに高くなっています。

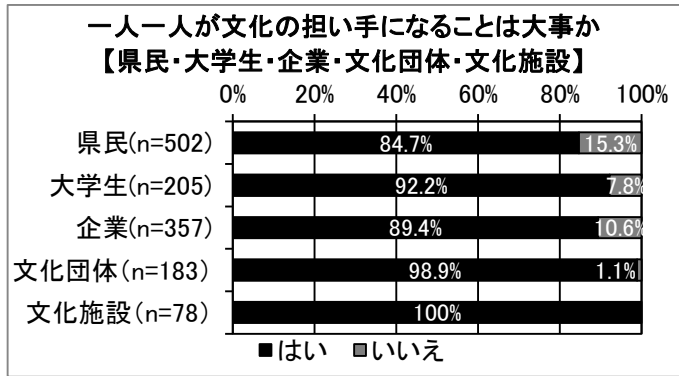
次に「伝統文化、有形・無形の文化財や歴史的な文書・記録の保存・活用（世界遺産などへの登録等を含む）」となっています。

重要度では「次世代を担う子どもたちが芸術文化に触れる機会の提供」が最も高く、満足度では「自主的に文化活動を行うための機会の充実」が最も低くなりました。



13 文化の担い手について

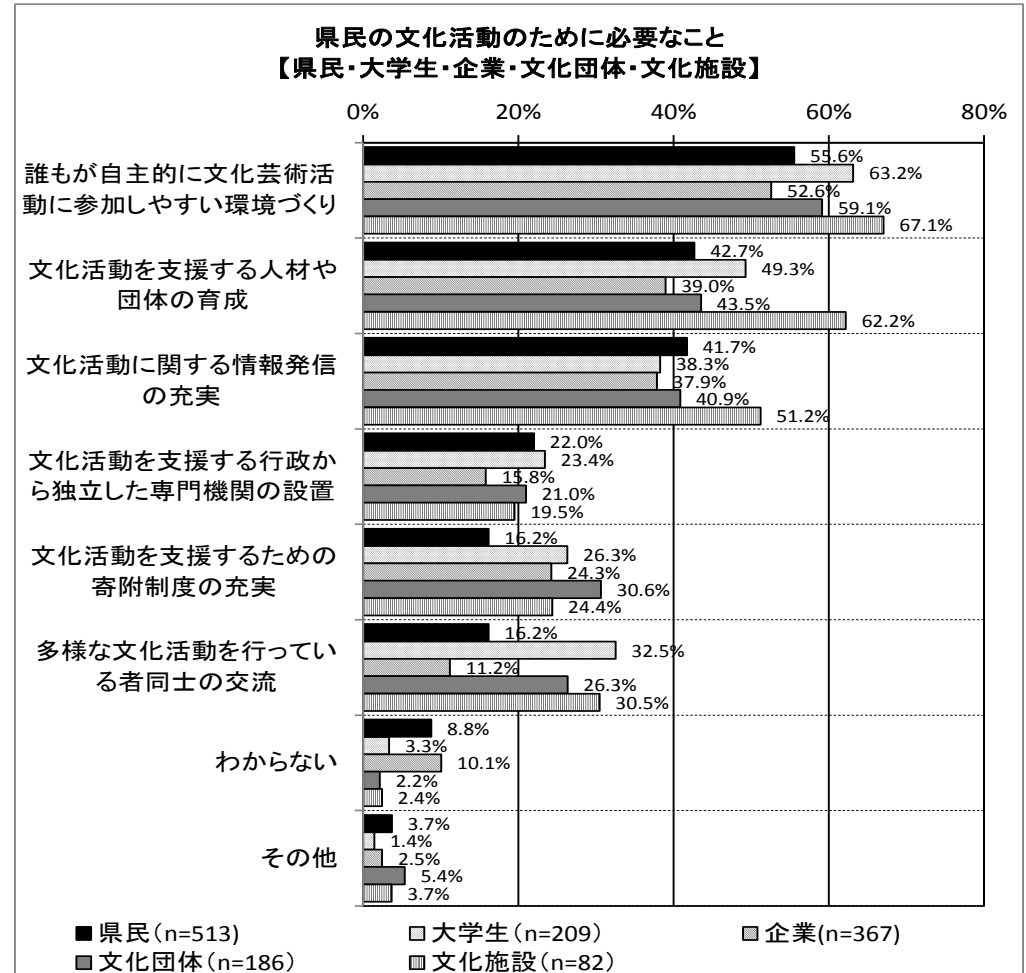
一人一人が文化の担い手になることは大事だと思うかについては、全区分で「はい」を選択した割合が80%を超えており、一人一人が文化の担い手になることは大事だと考えている人が多いことがうかがえます。



14 文化活動の自主性を尊重しつつ、活動が継続して行われていくために必要なこと

すべての区分において「誰もが自主的に文化芸術活動に参加しやすい環境づくり」が最も高くなっており、次いで「文化活動を支援する人材や団体の育成」となっています。

県民、大学生、企業、文化団体、文化施設では県民の文化活動のために必要なことは同様の考えであることがうかがえます。



群馬県が目指すべき文化行政の方向性

基本理念

心豊かな文化にあふれた活力ある「文化県群馬」の実現を目指し、
先人から受け継いできた「群馬の限りない可能性」を大きくはばたかせる

<基本理念の考え方>

今日、社会環境、経済状況等の変化により人と人、人と地域とのつながりが希薄になってきています。このような環境の中、県民による主体的で多様な文化活動を尊重することを基本として、文化の振興、文化を通じた人づくり、文化資産の保存及び活用などを図っていくことは、郷土への誇りと愛着を深め、心豊かな活力ある地域社会の形成につながるものです。本県の文化を取り巻く環境が大きく変化する中、昭和56年3月に県議会で議決された「文化県群馬」宣言の精神を引き継ぎ、群馬県が目指すべき文化行政の方向を示します。

基本目標

1 自主性、創造性及び多様性の尊重

文化を創造し、享受することが人の生まれながらの権利であることを踏まえ、文化活動を行う者又は文化活動を行う団体の自主性、創造性、多様性を十分に尊重します。

2 県民が等しく文化を鑑賞・創造等できる環境の整備

文化活動が県民に喜びや感動、潤いを与えること、文化活動が地域の活性化につながるものであることを踏まえ、県民が等しく、文化を鑑賞し、文化活動に参加し、文化の創造を行うことができるような環境の整備を図ります。

3 県民の文化活動の支援体制の充実

県民の文化活動が継続的に行われるべきものであることを踏まえ、県民の文化活動が活発に行われるような支援体制の充実を図ります。

4 文化の継承及び発展を担う人材の育成

文化活動が子どもたちの豊かな心を育成することや、地域の支え合う力を維持することなどを踏まえ、文化の継承・発展を担う人材の育成を図ります。

5 文化資産の保存及び活用

豊かな自然と、歴史風土に培われてきた地域における文化資産が、県民の貴重な財産として育まれて、将来にわたり引き継がれるべきものであることを踏まえ、文化資産の保存・活用を図ります。

6 情報の発信及び文化交流の促進

文化活動が国内外の人と人、地域と地域の相互理解を深めるために重要な役割を果たすものであることを踏まえ、多様な文化との交流に努めるとともに、文化に関する情報の発信を進めます。

指針の推進に当たっての考え方

1 県民等との協調

文化振興指針の推進に当たっては、県民、市町村、大学、企業等との連携が不可欠であり、文化振興指針を総合的かつ効果的に実施するため、県民目線の文化振興施策の推進に取り組みます。

また、学識経験を有する方や文化活動を行っている方などにより群馬県文化審議会を組織し、県民意見を文化振興施策に反映させます。

2 長期的・広域的な視点での推進

本県の現状と県民ニーズ、時代の潮流を踏まえた長期的な展望に基づき、計画期間（5年間）に実施する文化振興施策の目標・方向を示します。また、地方分権の進展により、県、市町村の役割が変わりつつあることを踏まえ、市町村と協力・連携しながら、広域的な視点で文化振興施策の推進に取り組みます。

3 実効性の確保

- ・文化振興指針で示す文化振興施策を着実に実施していくため、群馬県文化振興基金を設置しました。
- ・各施策を総合的・効果的に行うため、群馬県文化審議会において基金の使い途について評価・検証などを行います。
- ・文化活動への支援プログラムの立案や実施、支援策の評価等を行う専門機関（群馬版アーツカウンシル）の設置に向けた検討を行います。
- ・文化振興基金への寄附の充実を図るため、県民からの寄附金と同程度の額を基金に積み立てる「寄附同額県費積立制度」等の導入を検討します。

基本的な文化振興施策

基本的な施策の主な方向

◎: 県民アンケート調査結果から重点的に取り組むべき施策

1 自主性、創造性及び多様性の尊重

- ◎ 県民一人一人が自主的に文化活動に参加できるような環境の整備などに取り組みます。また、多様な文化活動を行っている県民同士が、それぞれの文化活動を尊重し合うよう、多様な文化に対する理解を深めるための施策に取り組みます。

2 県民が等しく文化を鑑賞・創造等できる環境の整備

県民が芸術文化を鑑賞する機会（受動的機会）や県民が自主的に文化活動を行うための機会（能動的機会）の充実などに取り組みます。

- (1) 音楽、美術、写真、書道、茶道、華道などの芸術文化の振興
- ◎ (2) 群馬交響楽団や上毛かるたなどの群馬県特有の文化の振興
- (3) 県民がスポーツ文化や自然科学などに親しむ機会の提供
- (4) 文化の重要な支え手である高齢者の文化活動の充実や、障害者が文化活動に参加しやすい環境づくり
- (5) 文化施設での優れた芸術文化の鑑賞機会の充実
- (6) 県民が練習や発表など文化活動を行う場所の充実

3 県民の文化活動の支援体制の充実

県民や企業、大学などと協働して文化振興施策を推進するための支援体制を整備します。

- ・文化活動に係る研究教育機関等の充実
- ・文化活動に対する企業の支援の促進
- ・県民の文化活動が自立的・持続的に行うことを可能とするための環境の整備

4 文化の継承及び発展を担う人材の育成

県民の文化活動が自主的に行われ、継続し、発展していくために必要な人材の育成などに取り組みます。

◎ (1) 次世代を担う子どもたちが文化芸術に触れる機会の提供

(2) 芸術家（アマチュアを含む）や文化団体、文化活動を支援する者の育成・支援

- ・文化活動を行う者の育成等
- ・文化団体の育成等
- ・文化活動を支える活動を行う者及び団体の育成等

(3) 文化活動で顕著な成果を収めた者や、文化の振興に寄与した者への顕彰

5 文化資産の保存及び活用

本県の「たから」である地域の多様で豊かな文化資産の保存・活用に取り組みます。また、地域における文化資産の価値を再認識し、地域の文化資産を活用した観光・地域振興に取り組みます。

(1) 伝統文化、有形・無形の文化財や歴史的な文書・記録の保存・活用

- ◎ 伝統文化の継承
- ・文化財等及び歴史的な文書等の保存等
- ・富岡製糸場と絹産業遺産群の世界遺産等への登録等

◎ (2) 地域の文化資産（伝統文化、文化財、食文化、景観など）を活かしたまちづくりや観光・地域振興

6 情報の発信及び文化交流の促進

県民の文化活動をより活発にするため文化に関する情報の収集・発信に取り組みます。また、本県が全国に誇る文化資産を県内外に向けて発信します。

◎ (1) 文化に関する情報の収集や発信

(2) 文化を通じた地域間交流や国際交流の推進